

第1章

大学における学修・研究と図書館

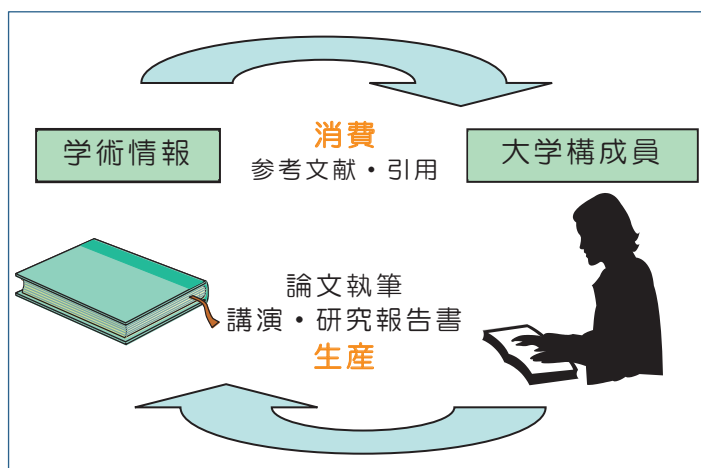
1-1 大学の学修・研究と情報

1-1-1 大学における学術情報

これまで皆さんが学習してきた教科書に書かれていた内容の多くは、過去の研究者による研究活動の成果が元になっています。そして大学では、現在も新たな学術情報が日々生産され、論文や図書といった形で発表されています。発表された研究成果は流通して参考文献や引用という形で「消費」され、他の研究の元となることで、さらに発展した研究成果につながっていきます。

皆さんはこれから、大学で最新の学術情報を学んでいくこととなります。そして、いずれは皆さんも新たな学術情報の「生産者」となることが期待されています。

さて、学術情報の数は年々蓄積され、爆発的に増加しています。その膨大な情報の中から本当に必要なものを見つけ出し、適切に活用するためには情報リテラシーが必要です。次節で詳しくみていきましょう。



1-1-2 大学生としての情報リテラシー

(1) 情報リテラシーとは

情報リテラシーという用語は、単に情報検索ができるとか、パソコンが使えるといった狭い範囲の能力を指すだけの言葉ではありません。国立大学図書館協会では「情報リテラシー」を

「課題を認識し、その解決のために必要な情報を探索し、入手し、得られた情報を分析・評価、整理・管理し、批判的に検討し、自らの知識を再構造化し、発信する能力」※

と定義しています。この定義を課題認識から情報発信に至るまでの場面に切り分けると以下の6場面で見られます。

<情報活用行動プロセスの6場面>

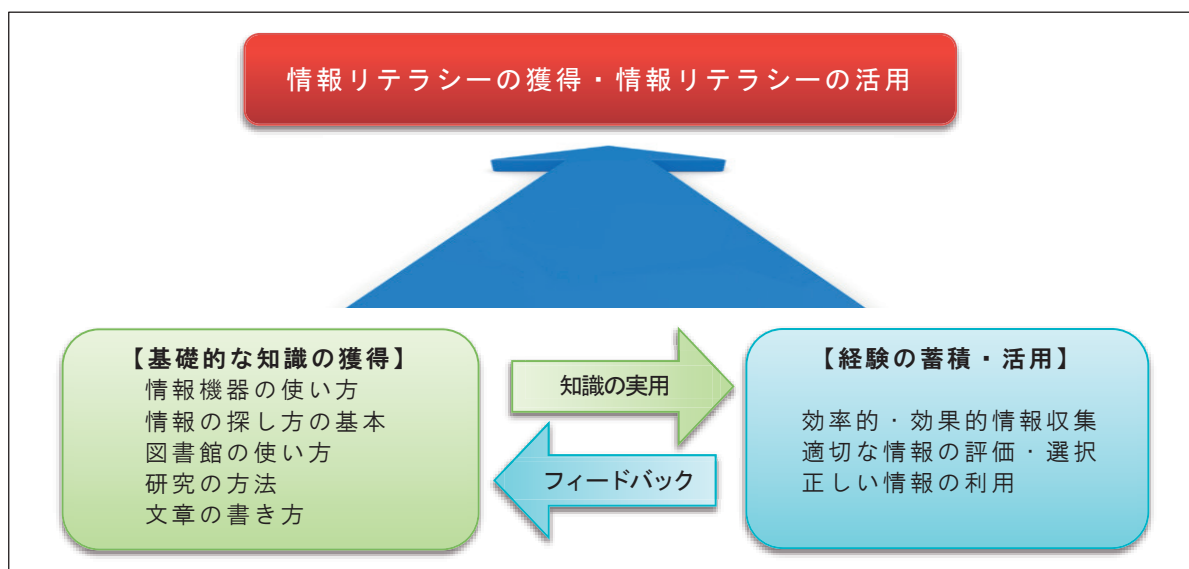
- 1 情報を認識する
- 2 情報探索を計画する
- 3 情報を入手する
- 4 情報を分析・評価し、整理・管理する
- 5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
- 6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

大学において学びを深め、学術情報の消費者・生産者となるためには、この情報活用行動プロセスの6場面それぞれに必要な情報リテラシーを身につけ、活用することが求められます。

※高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版。国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会。 <https://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

(2) 情報リテラシーを身につけるためには

では、具体的にどうすればよいのでしょうか。情報リテラシーは、基礎的な知識を身に付け、経験を積みながら情報活用行動のプロセスを繰り返すことでどんどん鍛えられます。大学は情報リテラシーを身に付けるのに絶好の空間です。大学の講義や演習によって獲得できる知識・経験のみならず、自分でも学修していくことができます。この情報探索ガイドブックを活用しながら、あらゆる機会において自分を鍛えていきましょう。



1-2 大学図書館の役割と活用方法

1-2-1 大学図書館の役割

大学図書館は大学の中で、学術情報を扱う中核的な機関です。

大学図書館は、学生・教職員の学修・研究に必要な情報を収集し、整理して保存し、提供しています。特に大学図書館では公共図書館等に比べ保存に重点が置かれ、長い期間に渡り資料を保存しています。同時に情報化社会の中で、従来の紙媒体の資料に加えて、視聴覚資料や、電子ブック・電子ジャーナルといったインターネット上の電子資料の提供も行っています。

また、情報の集積だけではなく、情報の流通・発信においても大学図書館は役割を担うようになってきました。大学で生産された学術情報を集積し世界に発信する学術情報リポジトリ、地域の学術機関との連携、住民の方々への開放により、地域の学術基盤となることを目指しています。

大学内での役割＝学術基盤としての図書館

- ・学術情報の収集及び保存
- ・学内への利用サービス

地域社会での役割＝地域の学術基盤としての大学図書館

- ・地域の学術情報の中核
- ・地域住民への学術情報提供

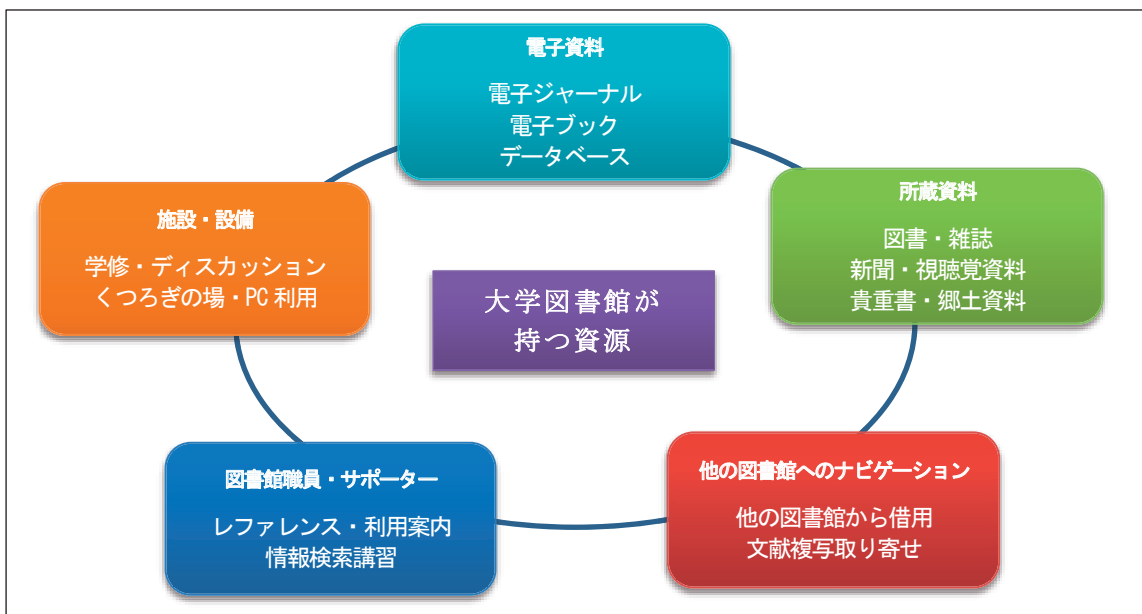
国内での役割＝学術情報流通の担い手としての図書館

- ・学内生産資料の発信
- ・図書館ネットワークの形成と他機関利用者へのサービス

1-2-2 大学図書館の多様な資源

大学図書館では図書以外にもさまざまな資源を提供しています。所蔵している資料はもとより、インターネット上にある資料や、他の図書館が持っている資料の提供も可能です。

また図書館は、学修・ディスカッションの場、学術情報を扱う専門職である図書館職員の知識・経験なども提供しています。これら大学図書館が提供する資源を利用することは、大学の構成員である学生の皆さんに与えられている権利です。ぜひ大いに活用しながら、充実した大学生活を送ってください。



【秋田大学附属図書館の利用方法については、パンフレット「ようこそ図書館へ」及び当館ホームページを参照して下さい】

ウィキペディア(Wikipedia)



ウィキペディアに掲載されている記事のジャンルは幅広く、既存の事典にはない項目も多いので（“超神ネイガー”もある）、「調べ物」として利用するには便利です。しかし、誰でも編集に参加できるため、情報の信頼性・著作権侵害などが問題になることがあります。

過去には宮内庁などの中央官庁の職員が、自分の所属する団体に都合のよい記事に書き換えたとして問題になりました。また、アメリカのある大学では、テストでの共通の間違いがウィキペディアからの引用によるものだったことから、テストやレポートで引用することを禁止しました。

ウィキペディアの内容をそのまま引用せず、このガイドブックで紹介している資料などで確認するようにしましょう。